



Part.2

三菱地所ホーム株式会社編



三菱地所ホームの環境保全活動



環境方針

三菱地所ホーム株式会社は「住まいづくりを通して地球環境保全に貢献する」という基本理念に基づき、お客様に真に資産となりうる高品質な住宅を供給する事業活動において、以下の方針に基づき環境マネジメントを行います。

- 1、事業活動において環境影響を明確にし、住宅の建設現場も含め環境に配慮した適切な活動を行い、環境汚染の予防を図ります。
 - (1) お客様に対し環境に配慮した住環境を提供するよう努め、またお客様のニーズに迅速かつ的確に対応できるコミュニケーション体制を整備します。
 - (2) 住宅を構成する部材の選定及び商品開発、設計等の基本的な段階から環境負荷の軽減に取り組みます。
 - (3) 建設現場では環境の保全に努め、周辺の地域環境に配慮した施工を行います。
 - (4) 建設現場から排出される廃棄物の発生抑制、リサイクル向上及び適正処理を推進します。
 - (5) 全社員に対する環境教育を徹底するとともに、関連協力業者に対する環境保全意識の啓蒙に努めます。
- 2、事業活動に係わる環境関連法令を遵守し、さらに自主基準を定めて環境パフォーマンスの向上に努めます。
- 3、環境マネジメントシステムを永続的に改善向上していくため、環境目的及び環境目標を定め、定期的な見直しを行います。

平成11年4月12日

三菱地所ホーム株式会社
取締役社長 山崎 建人

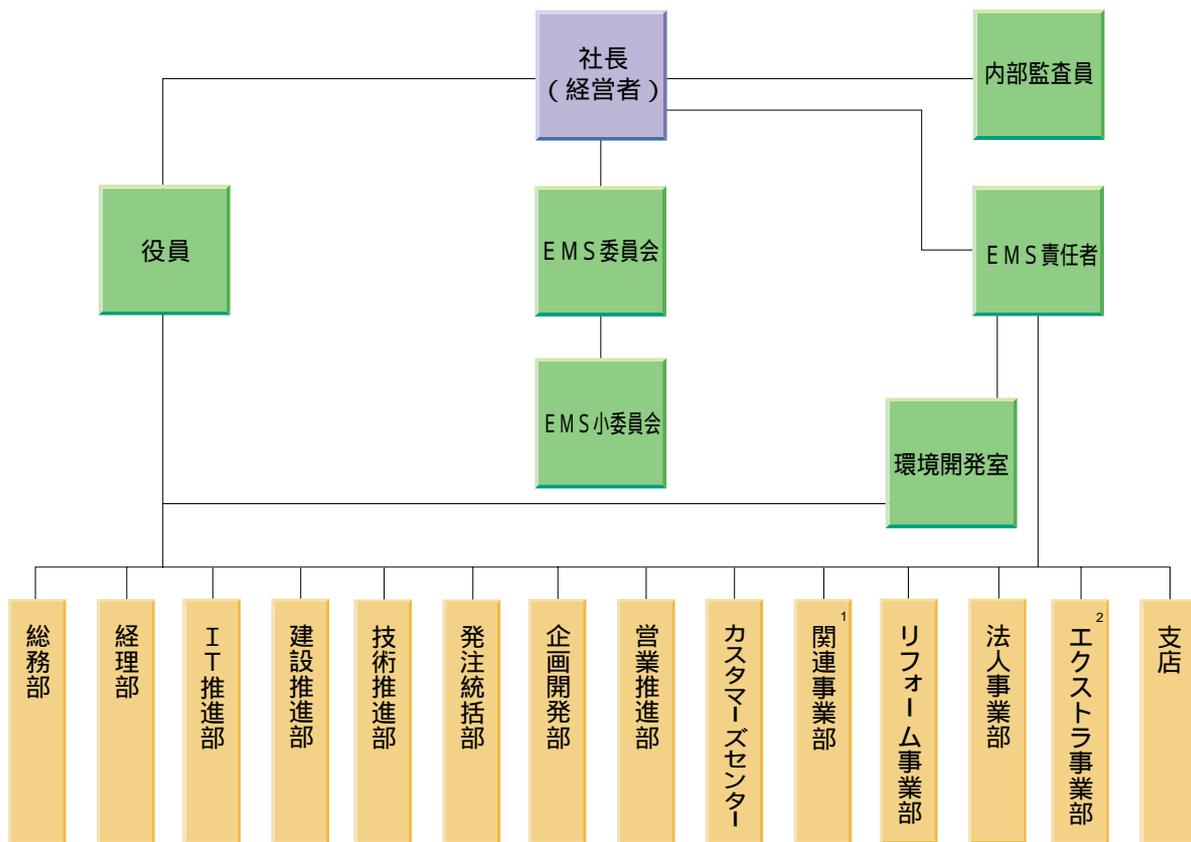


三菱地所ホームの環境マネジメント

環境経営を推進するための全社組織（2001年4月1日現在）

三菱地所ホームでは、早くから環境に配慮した設計・施工、廃棄物の排出抑制等を住宅メーカーとしての重要課題と位置づけ取り組んできました。また高断熱高気密住宅と換気・冷暖房を組み合わせた「エアロテック」や室内空気環境に配慮した健康住宅など、環境や省エネルギーに優れた住宅の開発・販売にも積極的に取り組んできました。これらひとつひとつを確実に実施していくため当社では、1999年2月に環境マネジメントシステム（EMS）を導入し、社員はもとより関連協力業者一丸となって循環型社会の構築に向けた取り組みを行っています。

EMS = Environmental Management System



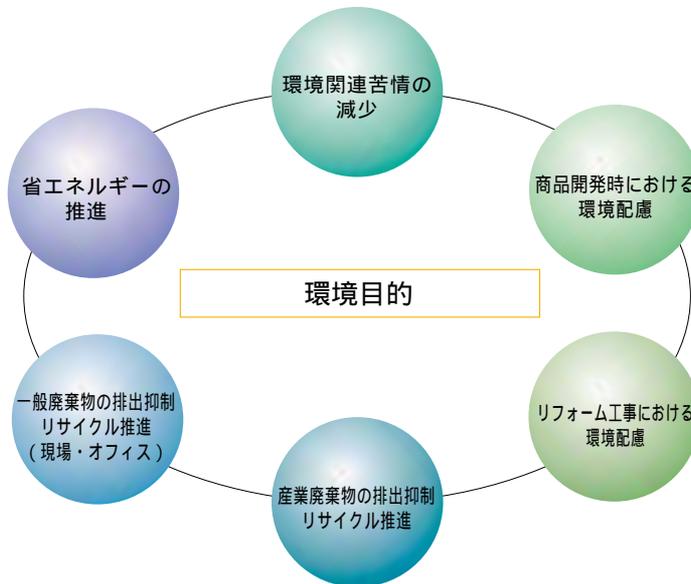
- * 1 関連事業部は、オフィス業務を除く、不動産・保険業務をEMS適用範囲外とする。
- * 2 エクストラ事業部は、オフィス業務を除く2×4工法以外の工法に関する業務を適用範囲外とする。
- * 3 各部署には、環境担当者、情報担当者、文書管理担当者を各1名置く。

2000年度の取り組み実績

(2000年度環境マネジメントプログラムの運用結果)

2000年度環境目的

1999年度に各部署で「環境基本調査」を行い、その結果に基づいて「2000年度環境目的」を設定し、環境目的ごとの目標を設定・実施しました。以下に2000年度に行った環境マネジメントプログラムの運用結果を示します。



環境関連苦情の減少

- 1、騒音発生源の特定と発生量の特定・減少
- 2、近隣からの粉塵・ほこり関連苦情の減少
- 3、近隣からの吹付材関連苦情の減少

2000年度における環境関連の苦情件数は55件でした。その内容は次の通りです。

全苦情件数	55件中
近隣からの騒音関連苦情	26件(昨年度 24件)
近隣からの粉塵・ほこり関連苦情	15件(昨年度 32件)
近隣からの吹付材関連苦情	2件(昨年度 3件)
その他(工事車両、悪臭等)	12件(昨年度 57件)

1999年度の全苦情件数は116件あり、2000年度全苦情件数は55件と削減できました。における騒音発生源については、作業時間外に行われた工事に関するもの、重機を使用した工事に多く、次年度はこの二点を重点的に考え行動していきたいと考えています。

商品開発時における環境配慮

- 1、エンジニアリングウッドの利用推進
モデルハウスにて試験施工を実施し現在問題点の検討を行っています。
- 2、注文住宅におけるランニングエネルギーコストを1997年度比で12%削減
昨年に引き続き取り組みを行ってきました。本年度ランニングエネルギーコストは目標Q値1.759のところ1.76となりました。来年度も継続して行って行きたいと考えています。

JX ANYなら、暖房費を50%以上節約!!

「JX ANY」は暖房費がローコスト。公庫基準と比較して、省エネ仕様(一般型)を大幅に上回る、年間50%以上の削減を可能にします。

年間の暖房費合計の比較
データ:当社熱負荷計算プログラム「ARCSS」により、延床面積117.58㎡(35.56坪)の建物で比較。公庫基準を100とする。



1999年9月「JX ANY」販売開始



リフォーム工事における環境配慮

この取り組みは本年度より新たにリフォーム工事をEMS範囲に取り入れたため行っている内容です。

1、リフォーム工事におけるホルムアルデヒド使用量の削減

クロス用接着剤・内装合板建材をそれぞれ、ノンホルマリン接着剤・JAS-FcO(相当品)JIS-E0(相当品)の使用を徹底することから、使用量を把握し削減を目指しました。

ノンホルマリン接着剤使用シェア.....83.7%

JAS-FcO(相当品)JIS-E0(相当品)使用シェア.....74.7%

このプログラムについては、次年度以降も使用シェア100%を目指し、行っています。

2、リフォーム工事における近隣からの騒音・振動・悪臭関連苦情の件数把握

3、リフォーム工事における近隣からの粉塵・ほこり関連苦情の件数把握

騒音・振動関連苦情件数.....7件

悪臭関連苦情件数.....3件

粉塵・ほこり関連苦情件数.....5件

以上の結果でした。次年度以降も継続し、苦情件数ゼロを目指します。

産業廃棄物の排出抑制・リサイクル推進

1、新築工事における産業廃棄物総量を1997年度比で2~40%削減。

このプログラムにおいては各部署ごとに独自の目標を立て行動してきました。

2、新築工事における産業廃棄物総量削減のための具体策、立案・運用

プレカット化(2x4材関係)パネル化推進

ロス率検討

メーカー梱包スリム化

納材数量精度の向上・推進

について行ってきました。

3、新築工事における産業廃棄物のリサイクルシステムの確立・運用

木屑のリサイクルシステム確立

東京・西東京・横浜・常磐支店・法人はシステム確立

湘南支店 一部焼却処理有り

仙台・広島 大半が焼却処理

ダンボール

東京・西東京・横浜・常磐・千葉・埼玉支店・法人はシステム確立

仙台支店 焼却処理

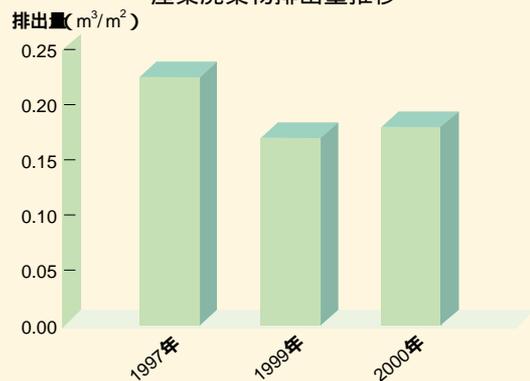
石膏ボード

東京・西東京・横浜・湘南・千葉・埼玉・常磐支店は石膏ボードメーカーにリサイクル持ち込み中

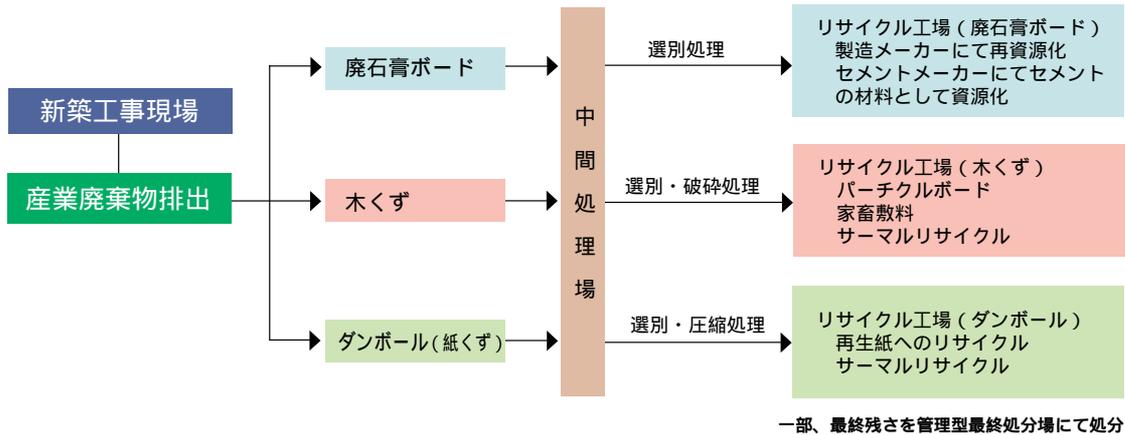
屋根材のリサイクルシステム検討

当社での屋根材シェアが多い屋根材メーカーと残材・端材の引き取りについて検討

産業廃棄物排出量推移



昨年度の平均排出量0.165に対し本年度0.17と排出量が増えています。これは本年度よりエクストラ事業部における2x4工法工事分を範囲に加えたためと考えられます。



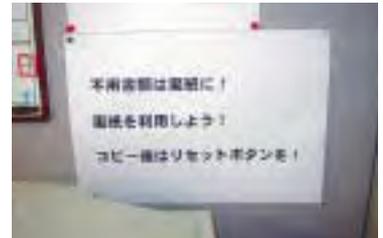
4、解体工事における産業廃棄物のリサイクルシステムを検討

2002年の建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)全面施行に向けて現在、関係省庁(国土交通省主幹)にて解体工事の事前申請案を作成中のため案が固まり次第、具体的対応策の検討に入ります。次年度も継続して要領作成を行っていきます。

一般廃棄物の排出抑制・リサイクル推進(現場・オフィス)

1、コピー紙購入枚数を1999年度比3~20%削減

このプログラムにおいては各部署ごとに独自の目標を立て行動してきました。
達成部署 東京支店・横浜支店・千葉支店・埼玉支店・常磐支店・仙台支店・
広島支店・エクストラ事業部・ルート営業推進部・リフォーム事業部・
企画開発部・環境開発室・技術推進部・建設推進部
次年度以降2005年度目標を目指し行動していきます。



2、一般廃棄物のリサイクル推進

各部良好でした。各支店ごとに工夫をし、それぞれ継続的に実施しています。



3、現場における弁当ごみと空缶の持帰りを促進させるシステムを運用

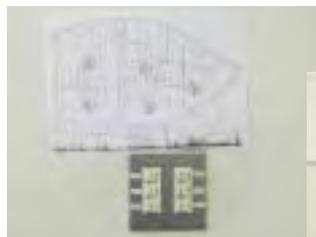
各部良好でした。現場内の見やすい位置にポスターを掲示し、関連協力業者へ運用を促しています。



省エネルギーの推進

電気使用量を1999年度比0~10%削減

このプログラムにおいては各部署ごとに独自の目標を立て行動してきました。達成部署は横浜支店・湘南支店・埼玉支店でした。達成部署が少ないのは本年度、パソコンを社員一人1台配付したためと思われます。今年度の実績を踏まえ来年度さらに削減を目指します。





管理活動 2001年度環境目的・目標

管理活動

三菱地所ホームでは、社員に対する研修はもとより関連協力業者のみなさんに対しても環境研修を実施しています。また環境学習の一環として環境に関するレポートを社員及び協力関連業者に配布し、循環型社会の実現に向けた啓発活動を行っています。



2001年度環境目的・目標

年度ごとに各部署で「環境側面調査・影響評価」を行い、その結果に基づいて「環境目的・目標」を設定し、顧客満足度の向上と環境保全活動に取り組んでいます。2001年度は全体的な目標に加え、各部署ごとに独自プログラムを設定し、更なる環境配慮に努めていきます。

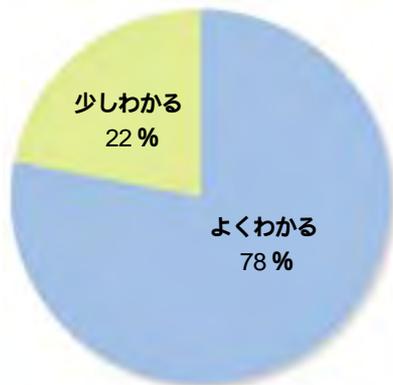
2001年度プログラム内容

- | | |
|--|---|
| <p>I. 環境関連苦情の減少
騒音発生量の削減
近隣からの粉塵・ほこり関連苦情の減少
近隣からの吹付け材関連苦情の減少
これらプログラムは苦情件数ゼロを目指して行動していきます。</p> <p>II. 商品開発時における環境配慮
支店受注物件の住宅におけるランニングエネルギーコストを97年度比で14%削減
ノンアスベスト化の推進
2001年度より新たに行なっているプログラムです。</p> <p>III. リフォーム工事における環境配慮
リフォーム工事におけるホルムアルデヒド使用量の削減
入居者・近隣からの騒音・振動・悪臭関連苦情の件数把握
入居者・近隣からの粉塵・ほこり関連苦情の件数把握
リフォーム工事における防蟻・防腐剤の検討
2001年度より新たに行なっているプログラムです。</p> | <p>IV. 産業廃棄物の排出抑制・リサイクル推進
新築工事における産業廃棄物総量を削減
新築工事における産業廃棄物総量削減のための具体策、立案・運用
産業廃棄物のリサイクルシステムの確立・運用</p> <p>V. 一般廃棄物の排出抑制・リサイクル推進（現場・オフィス）
コピー紙購入枚数を削減
一般廃棄物のリサイクル推進
現場における弁当ごみと空缶の持帰りを促進させるシステムを運用</p> <p>VI. 省エネルギーの推進
電気使用量の削減</p> |
|--|---|

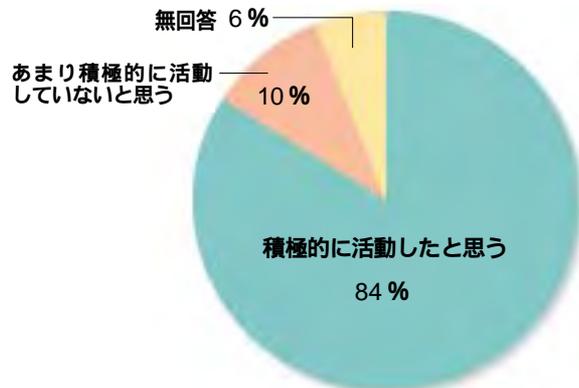
2000年度アンケート調査結果

環境マネジメントシステムの推進の一助として、「環境報告書2000年度版」発行時に関連協力業者153社へのアンケート調査を実施しました。その結果を紹介します。

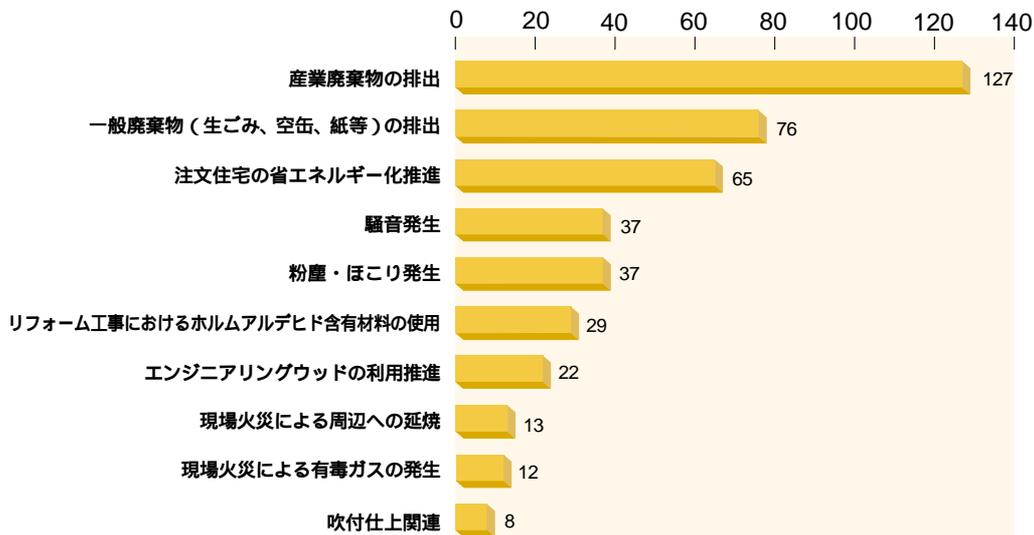
Q1 本環境報告書（2000年度版）をお読みになって全体的にどのようにお感じになりましたか？



Q2 昨年度（1999年4月～2000年3月）の三菱地所ホームにおける環境活動についてどのようにお感じになりましたか？



Q3 著しく環境に影響がある事柄として三菱地所ホームが特定した内容のうち、関連があると思われるものは何ですか？（複数回答）



Q4 ISO14001 に関心がありますか？

